

浅間山

○概況（平成 15 年 7 月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

地震活動は、6 月末頃からは微小な地震が増加し、7 月 8 日火山観測情報を発表しました。その後も地震回数のやや多い状態が続いています。また、火山性微動が時々発生しました。

火口底の温度は高い状態が続いていると考えられます。

二酸化硫黄の放出量は、今年 4 月頃に比べると少ない状態ですが、今後の推移を見る必要があります。

以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な噴火の起こる可能性はあります。山頂付近では少量の降灰や火山ガス、また風下側の山肌を流下する火山ガスには注意が必要です。

表 1 火山情報発表状況（浅間山）

火山情報名	発表日時	概 要
火山観測情報第 7 号	8 日 11:00	微小な地震が増加。
火山観測情報第 8 号	11 日 15:40	微小な地震がやや多い状態が続く。
火山観測情報第 9 号	15 日 15:30	微小な地震がやや多い状態が続く。
火山観測情報第 10 号	18 日 16:00	微小な地震がやや多い状態が続く。

○地震活動の状況

2000 年 9 月から、地震活動のやや活発な状態が続いていましたが、6 月末頃からは微少な地震が増加しました。今期間、1 日あたりの地震回数は 40～90 回程度で推移しています（全て無感地震、表 2、図 1、図 3）。火山性微動は多い日で 1 日に 4 回発生しましたが、基準観測点（B 点、火口の南約 2 km）での振幅は最大で 0.4 μm 、継続時間は最長で約 3 分と規模の小さいものばかりでした（表 2、図 2、図 4）。

表 2 火山性地震・火山性微動日別回数表（浅間山）

浅間山 (B 点)													
上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0		2	
低周波地震	48	18	36	45	84	82	97	80	63	41		594	
微動	0	0	0	1	0	2	0	3	4	0		10	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
低周波地震	85	71	53	44	68	46	82	45	48	71		613	
微動	4	1	2	1	2	1	0	1	2	1		15	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
低周波地震	70	53	52	40	74	49	71	45	61	57	55	627	1834
微動	1	2	1	1	0	0	3	4	0	0	0	12	37

短期・日別 地震活動推移（最近 2 年間の火山性地震・火山性微動の日別回数）

2002/6/22:360回

243回:2002/9/18

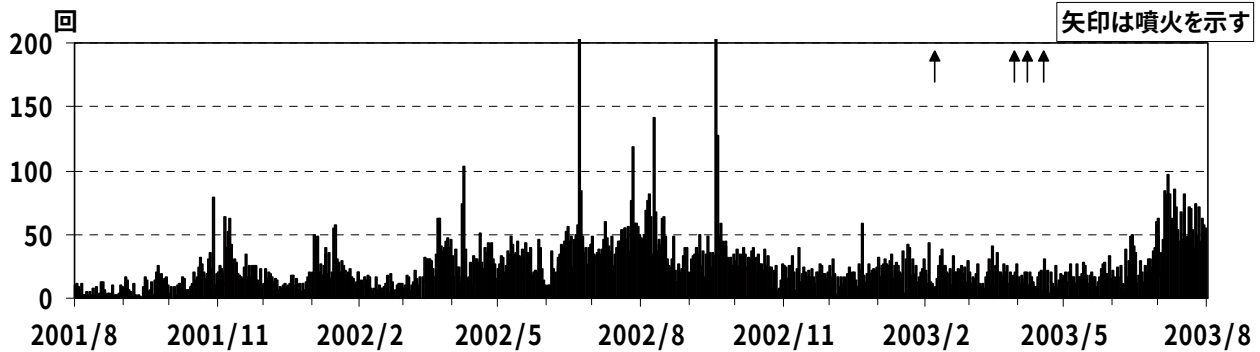


図1 浅間山 火山性地震日別回数（2001 年 8 月 1 日～2003 年 7 月 31 日）

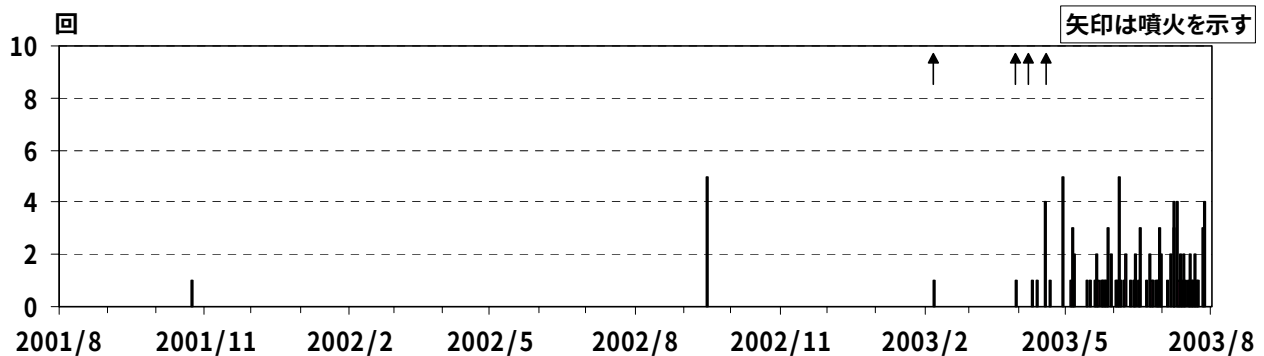


図2 浅間山 火山性微動日別回数（2001 年 8 月 1 日～2003 年 7 月 31 日）

長期・月別 地震活動推移（1964 年 1 月以降の火山性地震・火山性微動の月別回数）

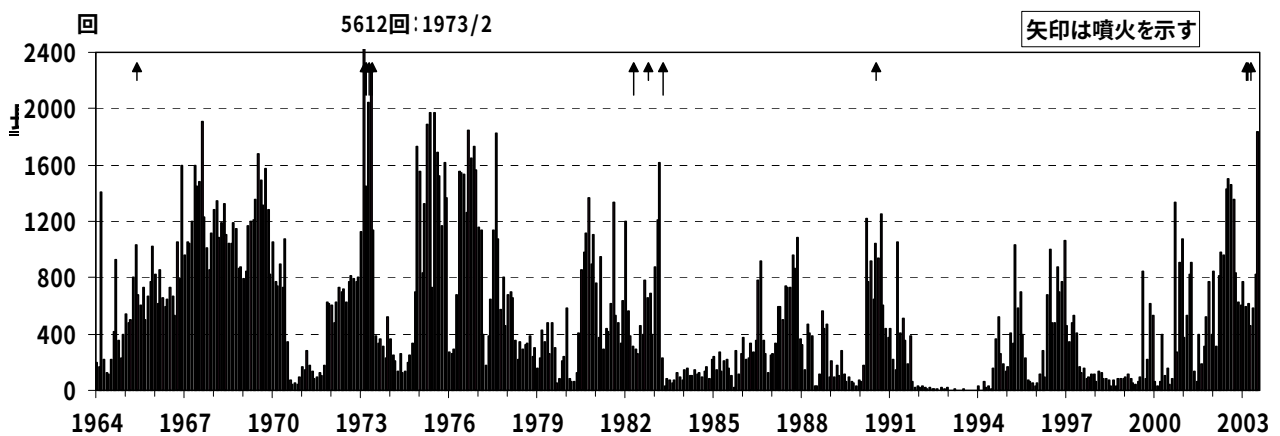


図3 浅間山 火山性地震月別回数（1964 年 1 月～2003 年 7 月）

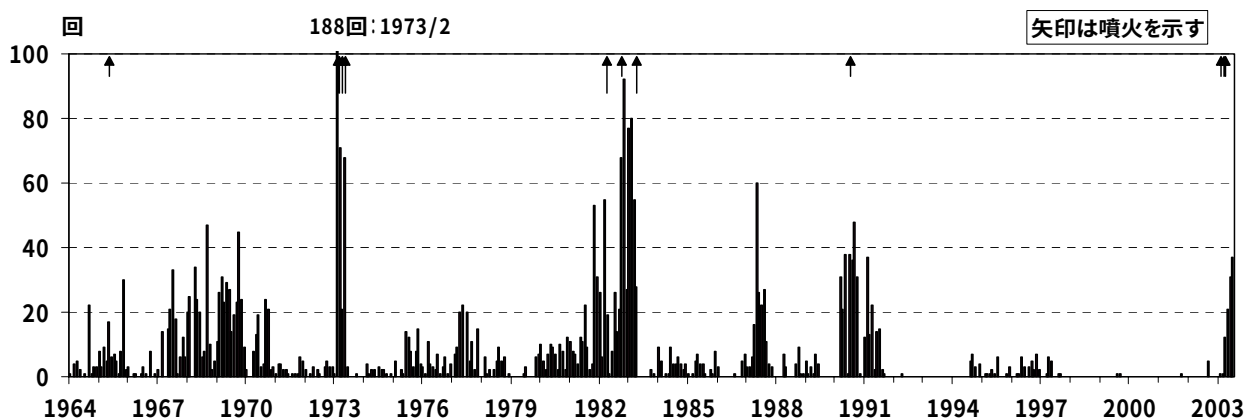


図4 浅間山 火山性微動月別回数（1964 年 1 月～2003 年 7 月）

○ 噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、悪天による視程不良のため観測できない日が多い状態でした（図 5、図 6、図 7）。また、4 月 18 日の極小規模な噴火以降、有色噴煙の噴出は観測していません。

短期・日別 噴煙活動推移 （最近 2 年間の日別噴煙高度）

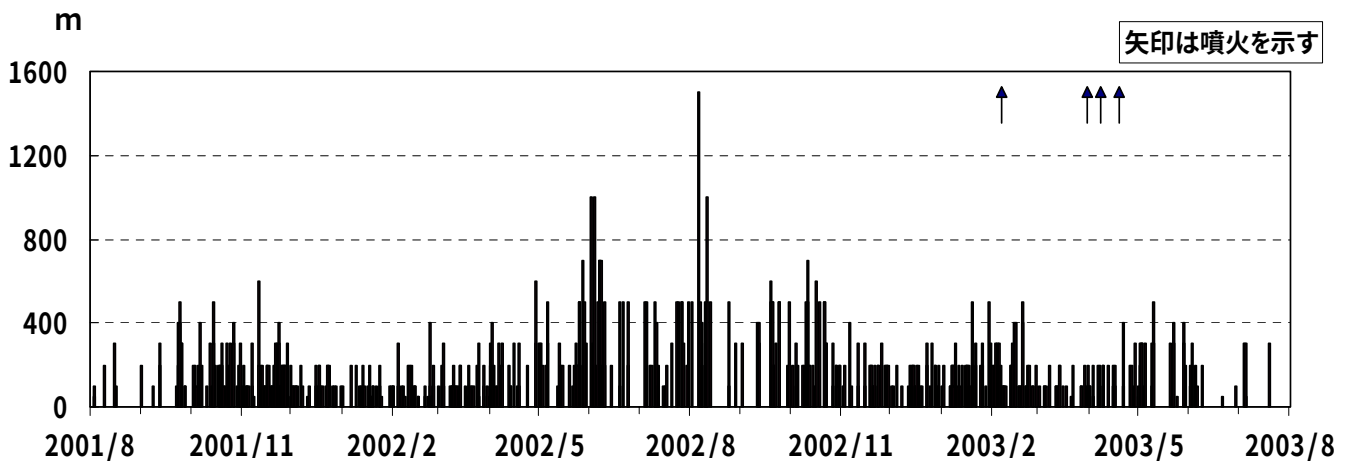


図 5 浅間山 日別噴煙高度（2001 年 8 月 1 日～2003 年 7 月 31 日）

長期・月別 噴煙活動推移 （1964 年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量）

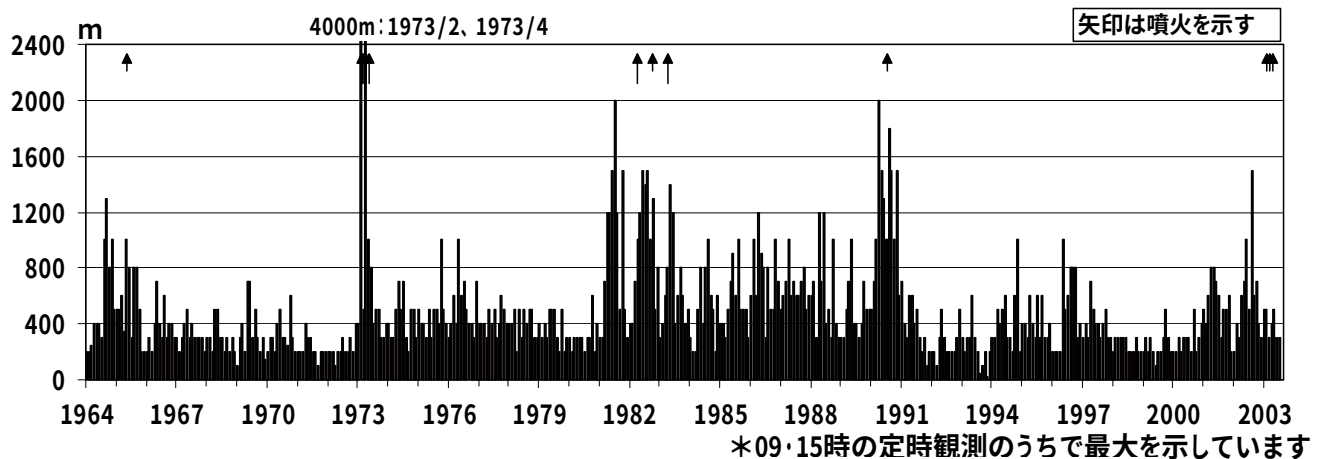


図 6 浅間山 月別噴煙高度（1964 年 1 月～2003 年 7 月）

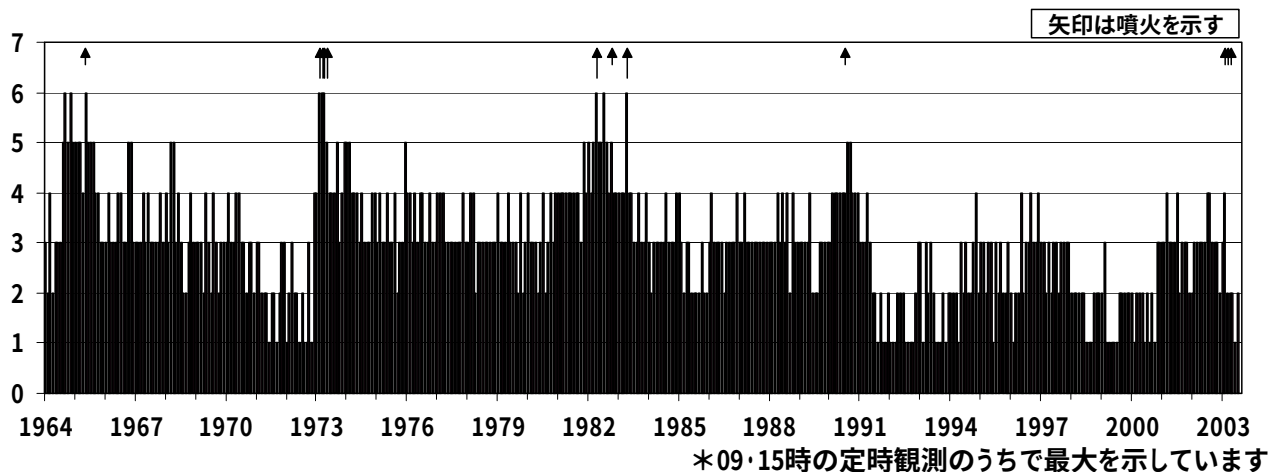
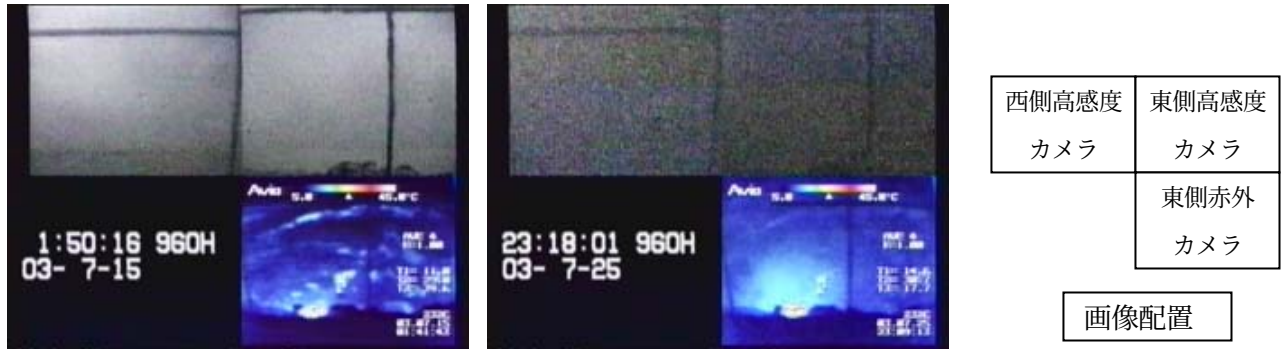


図 7 浅間山 月別噴煙量（1964 年 1 月～2003 年 7 月）

○火口温度の状況

群馬県林務部設置の赤外カメラにより、時折、火口底内の高温部分が確認されており（図8）、火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。



①7月15日 01時50分頃

②7月25日 23時18分頃

図8 火口内の様子

○火山ガスの状況

7月15日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測結果は、約300～500トン／日と、1000トン／日を上回る値が観測された4月頃までに比べると、放出量は少ない状態となっていますが、今後の推移を見る必要があります（図9）。

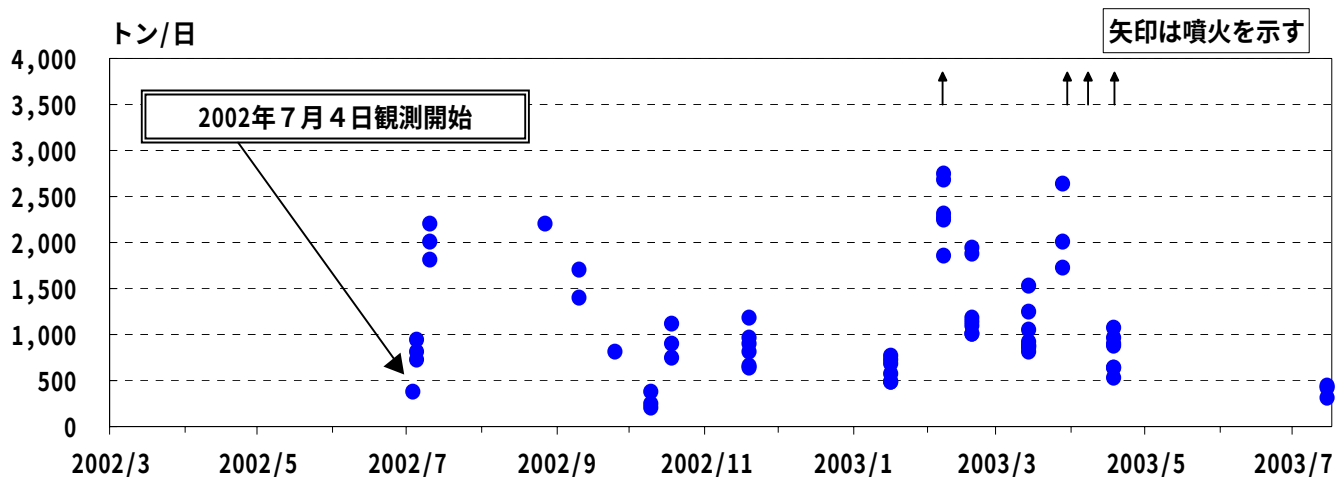
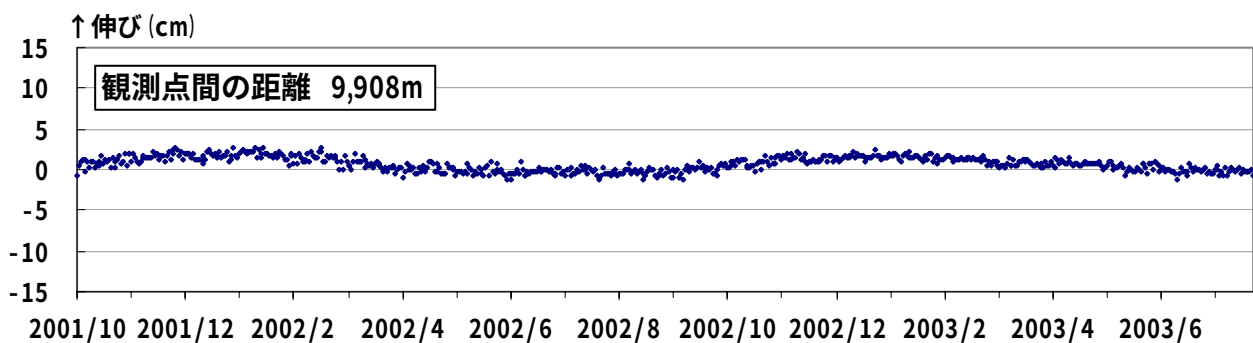


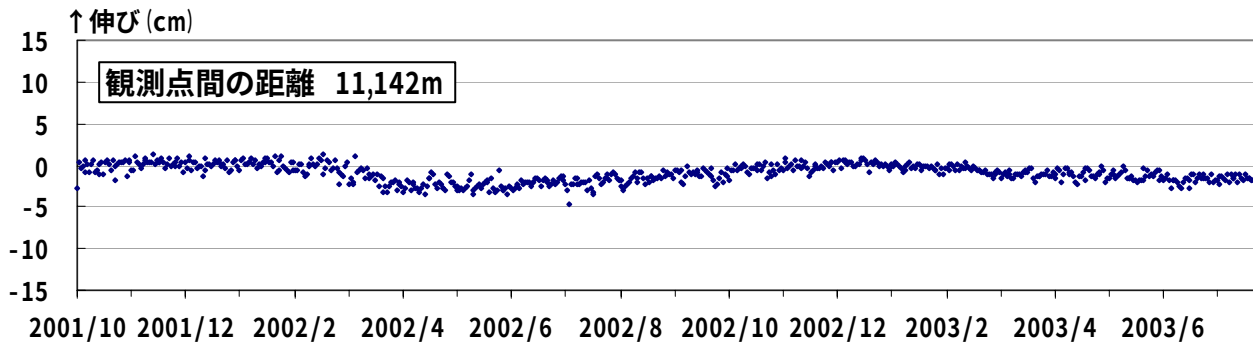
図9 浅間山 二酸化硫黄放出量（2002年7月～2003年7月）

○地殻変動の状況

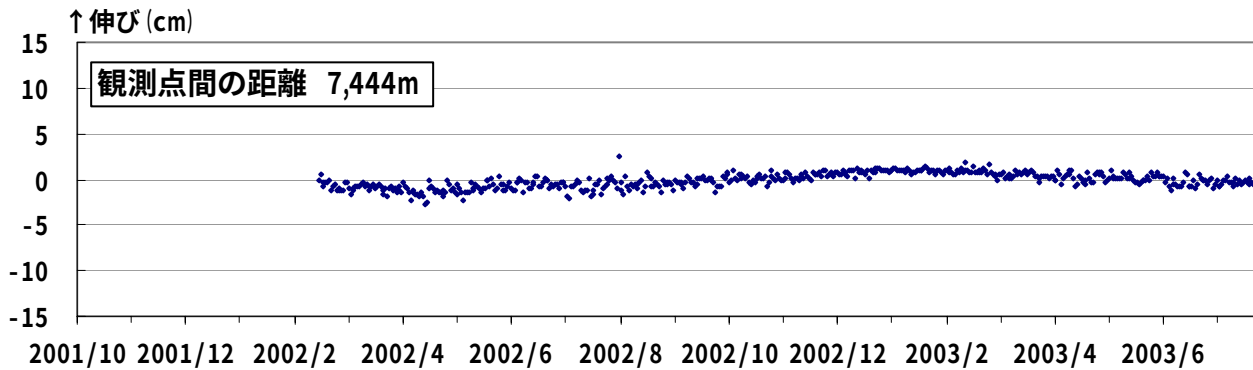
G P Sによる連続観測ならびに傾斜観測では、火山活動によるとみられる顕著な変化はありませんでした（図10）。



① 追分－高峰高原 基線長変化



② 追分－鬼押し出し 基線長変化



③ 高峰高原－鬼押し出し 基線長変化

図 10 浅間山 GPS観測結果（2001 年 10 月 1 日～2003 年 7 月 31 日）

